

2011
県高校
総体

第6日

那覇西流れ乗り連覇

県高校総合体育大会第6日は1日、県内各地で6競技を行った。ハンドボール男子は興南が7年連続23度目の頂点に立ち、女子は那覇西が2年連続7度目の栄冠に輝いた。ソフトボールは男子の嘉手納が2年連続2度目の制覇、女子は読谷が2年連続13度目の優勝を果たした。陸上の女子円盤投げは知念莉子(那覇西)が43㍍46で連覇し、砲丸投げも合わせて2冠を達成した。ヨットの男子FJ級は上原亮・田場優平(知念)が制した。大会第7日の2日は陸上の最終日、サッカー、テニスの個人戦決勝などの3競技を行つ予定。

▽ハンドボール
(沖縄市体育館)
△男子決勝
興南 37-21
嘉手納 37-9
△女子決勝
那覇西 37-6
陽明 15



那覇西一陽明 後半、ジャンピングショットを決める那覇西の下地聖良(左)、沖縄市体育館(名嘉眞朝英撮影)

県高校総体 2011

下地連続得点 反撃の起点

「ほかの選手も(攻撃で前に)上がっていくのを見て、流れがきたと感じた」と下地。これと同時に、徐々に本来の動きを取り戻した選手たちは「これまで特に力を入れてていた」ディフェンスがさえ始めた。着実に得点を重ねる一方、相手の陽明はシートミスやセーブされる場面が増した。陽明に最後まで満足な攻撃をさせなかつた。

「連覇のプレッシャーもあつたけど、それに負けなかつた」とがうれしい」と三輪はるか主将。震災の影響で全国選抜が中止になつたため、全國総体は「ふっつけ本番」の気持ちで臨む。目標の一一番に向けて自信を持ってプレーができるように、これから始めていきたい」と前を向いた。

○…「総体独特の雰囲気の中、硬くなっていた」という女子那覇西。

試合序盤、「10分間は我慢しよう」と下地保監督の指示が飛んだ。3-

5でリードされた場面。エースの下地聖良は「競っていたし、決めたかった。自分がやらなければと思つた」。相手ディフェンスの空白エリアを突き、連続で4、5、6点目を奪うと、ここから試合の流れが変わつた。

5でリードされた場面。エースの下地聖良は「競っていたし、決めたかった。自分がやらなければと思つた」。相手ディフェンスの空白エリアを突き、連続で4、5、6点目を奪うと、ここから試合の流れが変わつた。

興南風格 一丸V7



興南一コザ 前半、コザディフェンスをすり抜けシュートを決める興南の仲田圭吾
=1日、沖縄市体育館（名嘉眞朝英撮影）

守り集中 後半エンジン全開

7連覇を果たした男子興南。エースの東江雄斗だけに頼らないチーム力で王者の風格を見せつけた。

「(負傷で)自分の調子が上がらないのは分かってた。「細かいミスはあったけど八、九十パーセントの力は発揮できた」と胸を張つてくれた」と東江。積極

に頼るわけにはいかない。自分で決めるのが仕事」と仲田圭吾。1対1も

果敢に挑み、得点を重ねた。この分、周りが頑張つた。

が上がらないのは分かってた。この分、周りが頑張つた。

けど八、九十パーセントの力は発揮できた」と胸を張つた。

けた。勢いを増した後半は21点を挙げ、危なげなく相手を退けた。

も守りでの集中が必要。相手のミスをうまく利用し、足を使つたディフェンスが

試合は「両チームとも浮き足立っていた」と黒島監督は「負けたらこれで最後だ」という

日本一を目指すチームの躍進のためには、今後、ま

江は「負けたらこれで最後だ」という

ことが予想される東江以外の活躍が鍵。黒島監督は

「ほかにもリードマンが必要」と話す。主

リードを広げて前半終了。

昭監督が話す序盤、守りで

耐えた。一進一退の状況で

攻撃がうまくいかない間

の幅を広めたい。将として、全国総体に向

けた」。開始15分を過ぎ

ることで、「この大会の課題を生

むこと」があると2通りは増やし

た」という。8強で終

わった)美ら島総体の屈辱

を晴らしたい」と力を込め

で練習したい。(大城誠二)